日本女子大学　社会連携教育センター　JWU 子育てサイエンス・ラボ
ニューズレター
ゆりのき
No.7
ゆりのき HP
2022 年 10 月 17 日発行

JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニューズレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も公式 HP で閲覧できます

＝＝＝＝＝＝第 9 回子育てサイエンス・カフェ報告（9 月 10 日実施）＝＝＝＝＝＝

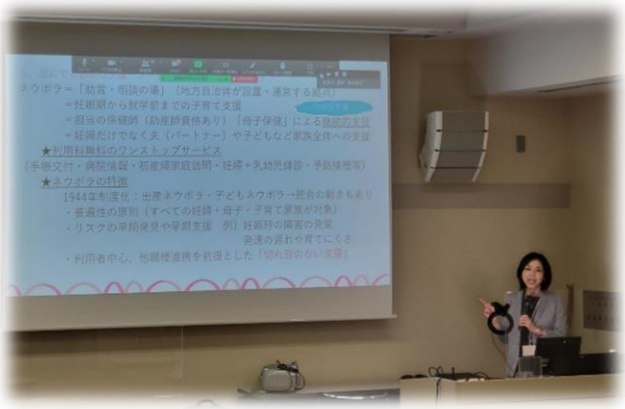
「ケア」はしんどい？！～子どもをめぐる支援の今

今回は初の生涯学習センターとのコラボ企画ということで、子育て当事者以外の方とも共有できるテーマとして「ケア」を取り上げ、「ケアはしんどい？！～子どもをめぐる支援の今」と題して、お話しさせて頂きました。

ケアというと高齢者の介護がイメージされるかもしれませんが、子育てや看病も「他者を世話する」ケアであり、心配することも「他者を配慮する」ケアです。ケアとは「他者との関係性」であること、これまでは家族内で主に女性が担う無償労働として捉えられてきたけれど、今日では一人暮らしや未婚者が増える中で、家族以外の他者へのケアが重要になっていることを確認しました。

ケアに対する関心が高まる一方、私達はケアや支援は弱い人が受けるもので自分とは関係ないと思いがちかもしれません。他者の手を借りず、自分の力で頑張ることが良いという価値観が強い社会だからです。頑張ることは大切ですが、自己責任が強調される中で「助けて」と言えずに生きづらさ、しんどさを抱えている人が多いのではないでしょうか？そこで、「自立とは依存先を増やすこと」という熊谷晋一郎氏の考えや、「健全な依存」を提唱する奥田知志氏を紹介しました。

（当日講演の様子および資料）



ケアは「社会化」されていくことが求められています。家族介護の問題もあるとはいえ、介護の社会化が進む一方で、かつて 3 歳児神話により 0 歳児保育が進まなかったように、子育ての社会化には現在でも様々な壁があります。国が子育て支援を打ち出したのは 1994 年のエンゼルプランからですが、家族が縮小化する中での孤立した子育てといった育児不安よりも、少子化の打破といった社会問題の解決が重視されていました。少子化の原因を仕事と育児の両立の困難と捉え、共働き世帯を主な対象としたのです。次第に、すべての家庭へと対象が広げられ、2000 年代になると様々な法律、ビジョン、プランの中で、社会全体で子育てを支援することが明記されていきます。

それでも子育て当事者が、支援を積極的に利用するに至っていないのが現状です。「こうありたい」という強い思い入れが、支援という「介入」を警戒しがちなことや、不安や悩みに丁寧に寄り添う支援＝伴走型支援がなされていないからかもしれません。そこで伴走型支援の成功例としてフィンランドのネウボラや、日本の自治体でも「切れ目のない支援」の試みがなされていることを紹介しました。

「他者との関係性」であるケアはしんどいですが、他者との関わりの中で自分が変化するという醍醐味があります。孤立が社会問題化する現代だからこそ、ケア、支え合える社会が重要になっていくのではないでしょうか。

（人間社会学部社会福祉学科　黒岩亮子）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝子育て関連 卒論紹介＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

「大学生の子育て意識に影響を与える要因―親の子育てタイプに着目して－」

（2021 年度児童学科卒業生　松本遥　　指導教員・論文紹介：安藤朗子）

私のゼミでは、子育てに対する意識はどのように形成されるのかなど、子育て意識に関することを卒論のテーマに取り上げる学生がいます。

この卒論は、女子大学生 118 人（有効回答者数）を対象に Web アンケート調査を実施し、女子大学生の子育てに対する積極的な意識に関連する要因として、幼少期から高校生時期の両親の子育てタイプ、子どもとのふれあい経験や家族行事等の経験の多寡を取り上げ、それらの関連性について検討したものです。主な結果を図 1,2 にまとめてみました。

◆子育てタイプ 母親の「情愛」・「決定尊重」	・母親が、子どもと話し合って子どもの問題や悩みを理解し、優しさや温かみを与えられる養育態度（情愛）や子どもの意思を尊重して自由でいることを認める養育態度（決定尊重）であると、大学生の積極的な子育て意識が高い。
◆子どもとのかかわりや家族との体験 「赤ちゃんのお世話の経験」 「小学生の頃、祖父母や親戚と一緒に食事をする経験」	・赤ちゃんのお世話（おむつ替えやミルクを飲ませるなど）をした経験や小学生頃の祖父母や親戚と一緒に食事をする経験が多いほど、大学生の積極的な子育て意識が高い。

図 1 「積極的な子育て意識」と有意な正の相関関係がみられたもの

◆子育てタイプ 母親・父親の「依存期待」	・母親（父親）が、いつまでも自分の子どもをコントロールしようとする養育態度（依存期待）であると、大学生の積極的な子育て意識が低い。

図 2 「積極的な子育て意識」と有意な負の相関関係がみられたもの

積極的な子育て意識には、父親よりも母親の子育てタイプとの関連が強くみられました。今回は、対象が女子学生だけであったため、今後男子学生との比較研究が期待されます。

図 1 のように、幼児期から高校生の時期において、母親が「情愛」タイプや「決定尊重」タイプであると、女子大学生の積極的な子育て意識が高いこと、一方、図 2 のように、親（母親も父親も）が、「依存期待」タイプであると、積極的な子育て意識が低いという結果がみられました。

女子大学生の子どもとのかかわり経験では、「赤ちゃんのおむつ替えやミルクを飲ませるなどの経験」と積極的な子育て意識との間には有意な相関関係がみられた（図 1 参照）のに対し、「乳幼児や小学生と遊んだ経験」では関連がみられませんでした。積極的な子育て意識には、育児に実際に関わる経験が関係しているという点が注目されます。また、祖父母や親戚との食事の経験との関係もみられました。核家族化が進み、これらの経験が持ちにくくなっている現在、子育て世代への支援だけでなく、幼少期からの家族との体験や赤ちゃんの世話をする体験などを大事にすることの重要性を指摘することができたと思います。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝次回の子育てサイエンス・カフェは！＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

第 10 回子育てサイエンス･カフェ
「少子化、無子化は私たちの社会や経済をどのように変えるのか。」

講師： 家政学部家政経済学科 教授 伊ヶ崎 大理

概要： 少子高齢化が急速に進行すれば、私たちの社会の制度も様々な形で再設計する必要に迫られます。もちろん子供を産むか否かは、個人の決定が尊重されなければなりません。その一方で、個人が意思決定する際には様々な制約をもとに考えていること（例えば、同じような選好を持つ人でも子どもを産みにくい社会に住んでいるか、産みやすい社会に住んでいるかで子供を何人持つかは変わってくるでしょう）、個人個人の意思決定の結果が全体の動きに影響を与え、それがまた個人の暮らしにフィードバックされていくことなど、社会全体で考えていかなければいかない問題が多くあります。今回は、報告者の比較的新しい研究成果も紹介しながら、上記の問題について考えてみたいと思います。

日時： 2022 年 11 月 15 日（火）12：40～13：10

会場： 【対面（本学学生のみ）】 目白キャンパス 百年館 4 階 マルチメディア室 1

【Zoom（一般参加者）】 申込後に返信メールにて Zoom 詳細をお送りします。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、急遽 Zoom 開催のみに変更の場合がございます。

●参加費：無料 ●主催：日本女子大学社会連携教育センター

●お申込：QR コードもしくは URL からお申込みください。受付後に詳細をメールでお知らせいたします。

https://forms.office.com/r/srudS7eta6

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝子育て関連 Topic 紹介＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

JWU 子育てサイエンス･ラボは、ニューズレター「ゆりのき」の他、メールマガジンでも様々なトピックをご紹介しています。
今までこのようなテーマを取り上げました。今後も様々な情報をお届けする予定です。
メールマガジンにご興味のある方は、こちらからご登録ください。

【子育て topic1】 遊べる道を日本でも！

【子育て topic2】 キッズ･イン･ザ･キッチン

【子育て topic3】 安心感の輪

【子育て topic4】 マスク生活とこども

【子育て topic5】 NP（Nobody's Perfect）プログラム

【子育て topic6】 子どもと一緒に防災！、非常用持ち出し袋を親子でつくってみよう

【子育て topic7】 赤ちゃんの視力はどれぐらいですか？

【子育て topic8】「子どもと一緒におうちごはん！」季節の野菜や果物をとりいれて、お皿の上でアートを楽しむ感覚で食事を楽しみましょう！